

日本語副詞「ちょっと」における多義性と機能

岡本佐智子・斎藤シゲミ

1. はじめに

日本語を母語としない人々が日本語学習途上で日本人とコミュニケーションするとき、ことばの意味解釈から様々なすれ違いが生まれることがある。なかでも日本語学習者に平易であると思われがちな「ちょっと」は文脈によってその意味が異なるため、誤解を招きやすい。

例えば、会社員の日本語学習者が日本人上司に企画書を提出し、上司は婉曲に否定を表そうとして「これはちょっと難しいなあ」あるいは「ちょっと考えさせてほしい」と答えたとしよう。日本語学習者は相手の表情やことばのニュアンスを読み取るよりも文字通りのことばを理解する傾向があるため、「ちょっと」を断りの機能ではなく、「少し」の意味に置き換えがちである。したがって、「少しだけ」難しい、あるいは「短い時間だけ」考えればよいと解釈し、企画書採用の可能性が高いと期待する。ところがあとになって「No」であることが判明すると、なぜ始めにはっきり言ってくれなかったのかと不信感を抱く。一方、日本人の方は明らかに断ったつもりであるから当惑するばかりである。

このように日本人の話しことばでは頻繁に使用される「ちょっと」は、その多義性から思わぬミスコミュニケーションを生む。多くの日本語教科書では初級レベルにおいて、「ちょっと」は話しことばでの「少量」の意味であることや、「あしたはちょっと...」のような未完成文の言いさしは断りの用法であると提示されている。しかし、それ以外の意味用法は中上級レベルになっても学習機会がないため、教師の裁量に委ねられているのが現状である。

日本人どうしであれば「ちょっと」の意味解釈は比較的容易であるが、日本語非母語話者が文脈や非言語行動からその真意を推測したり察したりするのはやっかいである。この推測の手がかりとなるのが意味用法の知識であることは言うまでもない。本稿ではこの「ちょっと」の使い方を整理し、どのように提示していけば効率的な指導ができるかを考察したい。

なお、ここでは「ちょっとした～」「ちょっとやそつと」「ちょっと～ない」等のような語句については割愛する。

2. 「ちょっと」のあいまい性

日本語母語話者は「ちょっと」の意味をどのように理解しているのだろうか。国語辞典¹からその意味をまとめると、数量・時間・程度がわずか（全部ではないが）ある程度の意味 軽い気持ちで行うときの言いさし 一定の基準を超えたかなりの程度・分量である 呼びかけ 「ちょっと～ませんか」を用いて勧誘表現になる、の6つになる。

では、これらの意味用法は日本語母語話者であればだれもが的確に把握できるのであるか。E I I教育情報研究所（2001）が日本人対象に行ったアンケート調査では、自分の好物を友達や家族に味見させる場合に「このケーキちょっと食べてみる？」と勧める場面で、自分は相手にどれくらい食べさせるつもりか、反対に自分が言われたらどれくらい食べてしまうか、という質問をしている。その選択回答には5割以上が「一口」食べる、以下、約2割が「二口」、「3分の1」、「半分」がそれぞれ約1割、「全部」食べるが約5%、という結果が出ている。

この様ではない回答から、「ちょっと」を数量の程度ととらえた回答者は「少量」と判断して一口か二口になるが、ある程度の場合は3分の1以上食べ、呼びかけや勧誘表現ととらえた場合は差し出されたケーキを「全部」食べると回答したのではないかと推測できる。このアンケートのように質問の場面設定が明確ではない場合は、日本語母語話者でも「ちょっと」を約3割は第一義の程度の少量とは違う意味で判断している。これは裏返せば、日本語教育では詳細な場面設定を明示し、それぞれの場面で適切な解釈ができるよう、判断の決め手となる手がかりを示すことが重要であることを示唆している。

しかしながら、会話においては親しい関係であればあるほど必ずと高文脈になり、少ないことばでやりとりされるため、手がかりをつかむのは容易ではない。例えば、

a. 生徒：先生、この問題わからないんです。

先生：どれどれ、うーん。ちょっと考えさせて。

b. 上司：この縁談、どうかね。

部下：ちょっと考えさせてください。

aの「ちょっと」は考える時間が短い意味だが、bのほうは短い時間で結論が出るとは思えず、上司の思惑どおりの即答ができないため、「考えさせて」という要求を柔らかく提示したり、場合によっては婉曲に断っていると考えられる。aの場合は「ちょっと」のほうにプロミネンスがあり、bの場合は、「考えさせて」のほうにプロミネンスがあることが多い。また、「ちょっと考えさせて」を使って断る場合は、「ちょっと」と「考えさせてください」の間にポーズが入ることもある。

このように実際のコミュニケーションでは話し手と聞き手との関係だけでなく、発話者のプロミネンス、パラ言語、表情などの非言語メッセージを含めて多方面から意味を判断していかなければならないのである。

「ちょっと」の意味説明は日本語学習用辞書²においても、第一義に「時間、物事の量、

程度が少ない、低いようす」が、第3義か4義に「程度が高い」があげられているが、その二つの意味用法は場面設定やさまざまな要素によって大きく異なってくるにもかかわらず、そのことには触れられていない。

程度には個人差があるからこそ、日本語非母語話者には日本語の語感として日本人の一般的な程度にも言及していく必要がある。

3. 「ちょっと」の「高」と「低」

小池(2002)は、程度が大であるという意を表す程度副詞を、単なる程度の大小を表す軽量構文で使用される「とても・とっても・非常に・大変・たいそう」のグループと、他と比較した程度の大小を表す比較構文において使用される「ずいぶん・だいぶ・そうとう・かなり・よほど・よっぽど・ずっと・もっと・一層」のグループに分けている。それに対して、程度が小を表す「少し・ちょっと・やや・いささか・多少」などは計量構文・比較構文の両方で使用される、としている。

渡辺(2001)は、「多少」類が計量構文として使われている場合でも、ことばで表されていない予測が潜在していて、それが比較媒体として働いているのであり、程度小を表す本当の計量構文はなく、多少類は一貫して比較の程度副詞であると述べている。また、潜在比較には、ことばに表れていない予測が比較媒体として潜在しているのであるが、それは「話し手の思い込み」とし、同じ潜在比較を持つ、「けっこう、割に、なかなか、比較的」の語グループと比較している。そして、「話し手の思い込み」がプラス評価の思い込みで、それを全体として現実はそうでもないというのが「少々」のグループであり、マイナス評価の思い込みでそれが現実はそうでもないということを表すグループが「けっこう」のグループだとしている。

市川(2000)は、日本語学習者の「少し」の誤用から、学習者は「少し」自体が否定的の意味合いを持つと理解しているようであるが、日本人は、むしろ「少し」を肯定的に解釈すると述べている。日本語母語話者が「少し」を肯定的に解釈する理由は、「少し」には話し手の「プラス評価の思い込み」が潜在的に隠されていることを経験的に理解していて、それを基にした上で「少し」が使われているからではなからうか。こう考えると「ちょっと」が「少し」と同義の「量が少ない、程度が低い」で使われる場合も肯定的な意味だと考えられる。

「ちょっと」が「程度が高い」という意味で使われる場合を見よう。例えば、要求や依頼に対して、

c. それはちょっと難しいなあ。 / それはちょっと無理だよ。

と返答した場合の「ちょっと」は、「かなり・けっこう・普通以上」と同じように使われる。このように「無理、難しい、大変、だめ」など、被修飾語がマイナス的な意味をもっているとき、話し手はその語のマイナス度を強化した「かなり」と同様の思い込みを持つ

ていることになる。しかし、「あの店、ちょっと素敵だね」「新郎、ちょっとハンサムね」のように、被修飾語がプラスの意味に所属していれば、「ちょっと」は被修飾語のプラス基準を越えている「普通以上の」意味になるが、被修飾語のプラス度を強調し、「かなり」と同等になることはまれである。

「ちょっと」は、話し手や聞き手が持つ語の価値基準や、話し手の思い込みによって、「少し」の意味にもなるし、「かなり・けっこう」の意味にもなる。例えば、

e . 「昨日のテストどうだった。」

「ちょっと難しかったよ。」

eの会話では、「少し」とも「かなり・けっこう」ともとれる。しかし、テストの「難易度が高い」という思い込みの場合は、それほど難しくなく、むしろ易しかったという意味になる。反対に「難易度が低い」という思い込みの場合は、難しかったという意味になる。話し手と聞き手にトピックの背景など共通前提が合致していない場合は、個々の思い込みによって解釈のずれが生まれてしまうのである。

辞書例文から意味解釈の手がかりを見てみよう。

f . この問題は、君にはちょっと難しいかもしれない。(『現代副詞用法辞典』)

g . 一度の会議で結論を出すのは、ちょっと難しいだろう。(『副詞の用法分類』)

h . この問題は君にはちょっと難しすぎるんじゃないかな。(『日本語文型辞典』)

f ~ h文における「ちょっと難しい」は「少し」の意味にはならない。なぜなら、fには「には」という限定詞があり、gには「一度の会議で結論を出すのは」と言う前提条件があり、hには「~すぎる」という評価基準値のことが使われている。これらを糸口にすると、話し手は「難しさ」の程度を問題にしているのではなく、不可能であるという否定的な見解を述べていると考えられる。

ちなみに、「もうちょっと大きな声で話してください」のように「もう」「あと」等の累加副詞が付加された「ちょっと」は、「かなり・けっこう」の意味にはならず、「少し」の意味になる。

上記文からあいまい性を強めている推量表現をそれぞれ削除すると、

i . この問題は、君にはちょっと難しい。

j . 一度の会議で結論を出すのは、ちょっと難しい。

k . この問題は君にはちょっと難しすぎる。

「ちょっと」は対人コミュニケーションに欠かせない婉曲表現であるため、i ~ k文は「ちょっと」を用いなくても意味が大きく変わることはないが、「ちょっと」にプロミネンスを置いて、「かなり・けっこう」の意味で「難しい」の程度を高めると相手の行為への評価が直接的になるので、人間関係にかなりの緊張を招くことになる。その緊張を弱めるために、f ~ hのように推量表現にすることで、話し手は否定的な内容を断定することを避けようとしたと考えられる。

こうして見ると、「ちょっと」の「程度が高い」か、「程度が低い」かを判断する手がかりの一つに、推量表現があることがわかる。

4. 「ちょっと」の提示

石黒(2002)は、話し手が、自分の話していることはたいしたことではないということ、を、「ちょっと」を入れて示すことで、聞き手に自分の話を抵抗なく受け入れてもらうことを意図して頻用する傾向があるので、日本語教育の中で早めに導入しておくべきことばであるといえる、と指摘している。

彭(1990)は、「ちょっと」を物理的に数量や程度の少ないさまを表す「単純修飾」と場面に応じて文を弱めたり強めたりする「場面的添加」に分け、さらに「場面的添加」の下位分類として、話者の適応力 話者の行為 話者の判断 話者の評価 勧誘 依頼 希求 注意喚起、と7つの項目をたてている。これら7つの機能のうち と を除いた5つは「単純修飾」、つまり「物理的に数量や程度の少ないさま」という働きがついてまわっている。「場面的添加」というのは「心理的(対人距離)」であるので、話し手の心理によって7つに機能が異なるのであるが、「単純修飾」というのは、「物理的(程度量)」であって、機能は一つである。それがこのように多くの「心理的機能」にもついてまわるのは、「物理的」機能が「ちょっと」の根幹の機能であるからではなからうか。

その根幹を提示するためには、どのような導入方法が効果的であろうか。

中道(1991)は、「ちょっと」の意味用法を、「命題内容に情報を添加する用法」と、「命題の意味を含んではいても、それは次第に希薄になり、逆に、何らかの判断態度、伝達態度を示すことが主な機能になってくる」の観点で分けている。そして、

l. もうバスケットの残りはちょっとだ。

m. ちょっとのお金が用意できないばかりに、せっかく受かった大学に入れなかった。

l、m文のように数量が少ないことを表わす用法例を副次的用法文であげることで、学習者に理解しやすくなることを示している。

「ちょっと」の提示順は、「量が少し・程度が低い」「程度が高い」という命題内容に情報を添加する用法から出発して、「あいまいにする・やわらげ」という命題の意味が薄くなっていく「ちょっと」の用法へと進めていくことと、導入には副次的用法で明らかな意味差を提示したほうがよいことが確認できる。

5. 「ちょっと」のコミュニケーション機能

「ちょっと」のコミュニケーション機能を筆者らでまとめると、

依頼や、希求、指示行為の負担をやわらげる
否定的内容の前置き

断りを受けやすくする

呼びかけ

とがめ

間つなぎ

の6つになる。これらのコミュニケーション機能を支えているのは「ちょっと」の意味根幹である「少し」を用いることによって、文内容を軽減し、婉曲的な表現にすり換えられる働きがあることであろう。これはボライトネスの視点から、岡本ら（2003）が述べているように、「ちょっと」には聞き手と話し手の双方のフェイスを守るコミュニケーション機能があることと重なる。

第1番目にあげた依頼や指示など相手に行為を求めるときに、その行為の負担をやわらげる機能は、「～てください」「～てくれ」「～てほしい」「～てもらえないか」などのように聞き手の意思を尋ねる形式に「ちょっと」を用いることで、相手に求める行為を軽くさせ、受入れの寛容さに働きかける。すなわち「ちょっと」のやわらげ効果によって相手はその行為を受け入れやすくなるのである。

2番目にあげた否定的内容の前置き機能は、「ちょっと」が否定的な内容のマイナス度を小さくする枕ことばとなる。マイナスイメージの表現や、重大ではないが不利益なこと・不都合なことなど利害関係が起こる可能性がある場合、「ちょっと」を置くことによって、あとに続く否定的な内容を暗示させ、聞き手にその負の内容を受け止める心の準備を与えたり、話し手の心理的な負担を弱めたりする働きになる。

3番目の断りを受けやすくさせる機能は、「(日曜日は)ちょっと...」と言いさし、重要な述部を省略してしまう表現形式をとり、話し手が相手の期待にそえず申し訳ないという意味を創り出す。同時に、言いにくい述部を聞き手に察してもらう方法をとることで、話し手の意思決定に聞き手を参加させ、共同作業の会話に引き込みながら断りの了解を得ることができるのである。

4番目にあげた呼びかけの機能については、芳賀（1996）は「すみません」とか「待ってください」といった後続の表現が省略されたものだろうと指摘しているが、「ちょっと」自体に感動詞として、注意を喚起する働きがあると見るべきであろう。ただし、「ちょっと、これは何ですか。スープに虫が入っていますよ」のように、相手が目の前にいる場合は抗議など感情を示す目的も含まれるであろう。

5番目のとがめの機能は、周（1994）が自分の利益を聞き手によって損なわれたと思ったとき、「ちょっと」を用いることでその不満、怒りを表出できると述べているように、「ちょっと」にプロミネンスを置くことにより話し手の不満や怒り、威嚇、詰問、抗議などの感情を強めることができる。

そして、6番目の間つなぎの機能には、「あの、そのう、ちょっと、こう、なんて言ったらいいの？」のように、言いよどみを埋める間投詞の働きがあり、沈黙を回避しようと

しているものであり、「ちょっと」自体に意味はない。

以上、6つのコミュニケーション機能に整理してみると「ちょっと」が本来の意味である「物理的な量の少なさ」「程度が低いこと」「程度が高いこと」から派生して、聞き手への気配りを押し出しながら、話し手の責任を回避する役割があることがわかる。

機能の提示順も から へ移行していくと、学習者は理解しやすいのではなからうか。川崎（1989）がいうように「ちょっと」は会話の人間関係において潤滑油的役割を果たしているものであるが、頻用すると機能が拡散し、むしろ弊害となることにも留意する必要がある。

5. 「ちょっと」の学習段階と補足

「ちょっと」の意味用法は、日本語学習者が初級レベルでどのように習得していくのか、また、その学習段階で教師はどのような補足説明をしていけばよいか、現在国内の日本語教育機関で最も多く採用されている日本語初級教科書『みんなの日本語初級 』に照らし合わせてみたい。

『みんなの日本語初級 』では、「ちょっと」は「物理的な量の少なさ」の用法から始まっている。平均的な授業時間で20時間後の第6課に「ちょっと休みましょう」という相手に行為を促す表現で提示されている。同教科書の副教材『みんなの日本語初級 翻訳・文法解説』（以下、「翻訳解説」とする）には、「ちょっと」は「少し」の話すことばであることと、英語訳では a little while , a little bit、中国語訳では一下、一点儿のように「少しの間、少し」が説明されているのみで、自分の行為に同意を強制するいわば押しつけへの「やわらげ」には触れていない。

断りの機能は、初級の早い学習段階から扱われ、初出は第9課の「金曜日の晩はちょっと..。」で、翻訳解説には「誘いを断る婉曲用法」と説明されている。これはプラグマティクス研究の成果が反映され、コミュニケーションに欠かせない表現であることを意識化させる上で評価できよう。しかし、初級学習者に断りの意思表示として教えると、「すみません。ちょっと..。」のみで、理由を付け加えない表現が定着してしまうことがある。省略できるのは、比較的近い関係の場合だけであり、丁寧さを表す場合は省略できないことを補足説明しておく必要がある。

11課になると、「ええ、ちょっと郵便局まで」の表現で、「これはたいしたことではないですよ」という意味で出されているが、翻訳解説でも前置きの機能があることは無視されている。

「程度が低いこと」は12課で初めて登場する。「でも、ちょっと 疲れました」「ちょっと甘いです」といった表現は、前課で学習した「少し」の意味に置き換えても問題がないようになっている。このため、話し手の否定的な内容をやわらげる用法にも触れていない。この課で、量の少なさ、程度の低さをはっきり明示させた上で、「ちょっと」が否定

的内容の前置きであることを補足説明しておいたほうがよいと考える。

依頼の機能は、14 課の「ちょっと待ってください」で提示され、以降、相手に行為を希求する例文が頻繁に登場してくる。このため、学習者は要求文はすべて「ちょっと」で代用できると理解してしまう傾向があることから、ここでは負担度の軽い行為を求めるときのみ使えることを補足説明しておきたい。

23 課になると会話文に「ちょっとすみません。この近くに銀行がありますか」と呼びかけが登場してくる。しかし、「すみません」が呼びかけ機能の優位にあることから、教科書使用前のプレ学習項目に組み込まれており、「ちょっと」が付加されても既習とみなし、なんの説明もない。このため、学習者はこの「ちょっと」を既習の「少し」と理解してしまうので、教師はこの機に呼びかけの機能があることを補足し、とがめの機能提示へと発展させておきたい。

また、間つなぎの機能は、日本語母語話者は無意識のうちに深い意味もなく「ちょっと」を使っているが、日本語学習者は意味を追いつぎて混乱してしまうことがある。初級の会話聴解練習に追加し、学習者には談話の音声リズムに目を向けさせ、つなぎ語であるから聞き流してもよいというふうな指導すべきであろう。したがって、産出のための運用練習としてではなく、理解のための知識としての説明で十分であると考えられる。

このように教師の対応次第で、「程度が高い」表現以外は、初級前期レベルで「ちょっと」の意味用法とコミュニケーション機能がほぼ提示できるのである。これまで教師は初級教科書の語彙・文法コントロールに縛られすぎて、重要なコミュニケーション機能に目を向けさせることを省いてきたのではなかろうか。

程度が高いことを表す用法については、真嶋・濱田(1999)の初級教科書分析によれば、用例がないだけでなく、上級レベル学習者へのアンケート調査でもプラス評価の機能を知らなかった者が8割以上もいたと報告されている。

事実、筆者らが調べたビジネスビープル対象の中級教科書⁷では
n . 今度の新製品の価格設定は、ちょっと高すぎやしませんか。(『実用ビジネス日本語』)
o . 申し訳ございませんが、それはちょっと難しいですね。(『ビジネスのための日本語』)
のようにマイナスの意味を持つことばにつき、否定の程度を高めることで、非難や、断りの役割を果たしている例があるだけである。

初級レベルで「ちょっと」を導入しておけば、中上級レベルでの運用へとつなげられることを考えると、初級段階の学習項目と関連付けて提示しておきたい。

例えば、初級後期レベルの第36 課には「テレビのニュースはかなりわかるようになりました」という文型練習文がある。新出語の「かなり」の用例説明と併せて、「ちょっと」の「程度が高い」と「程度が低い」が対比できる場面設定を提示していけば無理なく知識として理解されるであろう。

初級レベルで「ちょっと」を見分ける基礎知識を網羅しておけば、日本人との実践的な

コミュニケーション練習を経て中上級での学習動機につながるはずである。

5. 終わりに

多義性を持つ「ちょっと」は、教師は教科書に沿って、依頼の場合は「ちょっと」を挿入する、断る場合は「～はちょっと...。」の形で言いさし表現にする等、「ちょっと」の意味用法を関連づけずに限られた文脈での意味用法を教えているのが一般的である。「ちょっと」を適切に解釈するには、話し手と聞き手の関係をはじめ、各意味用法・機能の違いが明確になるような場面設定をできるだけ多く提示することが重要であることを再確認できた。

「ちょっと」は、日本語母語話者が話しことばで多用しているため、学習者が耳にする頻度も高い。したがって、その「ちょっと」を早い学習段階で積極的に指導することに異論はなかろう。しかし、それが実践されていないのは、「ちょっと」のあいまい性研究が活発とは言えず、指導側が手探りで整理しようとしている段階にあるからである。

本稿では、「ちょっと」を「少し」と「けっこう」の視点からその意味用法を考えてみた。学習者の初級レベル終了時までには、機会を設けて「ちょっと」の多様な用法を整理したいと思っている。特に、「程度が高い」意味の「ちょっと」の用法や、「呼びかけ」、「間つなぎ」の機能は軽視されがちであるが、これらが日本語学習者にはミスコミュニケーションの要因となっていることを踏まえ、運用よりも、まず、理解のための意味用法・機能の知識定着を重視したい。それにより「ちょっと」の過剰使用や、書きことばや改まった表現にも「ちょっと」を使ってしまう誤用も防げると考える。

学習者ニーズを満たす完璧な教科書がないように、効果的なコミュニケーション表現を網羅する教科書もないものである。教科書を軸にしながら、コミュニケーションを円滑に運ぶ学習教材は学習者と教師が作り上げるものであることを改めて肝に銘じたい。また、初級段階で多義にわたる語を、便利なことばとしてあいまいなままコミュニケーション表現として安易に導入することが、学習者の意味概念をさらにあいまいにしまったり、反対に意味固定してしまったりする可能性があることも改善していかなければならないであろう。

〔注〕

1. 『現代国語例解辞典第2版』(1997)小学館、『新明解国語辞典』(1997)三省堂、『大辞林第2版』(1995)三省堂参照。
2. 『外国人のための基本語用例辞典第3版』(1971)大蔵省印刷局、『現代副詞用法事典』(1994)『日本語大辞典』(1989)講談社、『日本語文型辞典』(1998)くろしお出版、『フェイバリット和英辞典』(2001)東京書籍、『KODANSHA's Basic English-Japanese Dictionary 日常日本語バイリンガル

辞典』(1999) 講談社インターナショナル参照。

3. 「場面的添加」とは次の4つの条件を満たすものであるとしている。条件1: 「ちょっと」のようにある語と下接する語の関係は、直接的な修飾関係がない。しかしながら、人間と人間とのコミュニケーションを考察すればある語を挿入する必要性が出てくる。条件2: 主格たる話者、聞き手たる相手が不可欠である。条件3: 瞬間的現時点の発話。条件4: 場面に応じ、ある語を添加することによって、文の意味を和らげたり、強めたりすることができる。
4. 畠(1991)は「だ・です」を伴って述語になったり、格助詞の「の」を伴い連体修飾語となったるものを「副詞の副次的用法」と呼んでいる。
5. 『みんなの日本語初級 本冊』『みんなの日本語初級 本冊』(1998) 『みんなの日本語初級 翻訳・文法解説英語版』『みんなの日本語初級 翻訳・文法解説中国語版』(1998) スリーエーネットワーク参照。
6. 『みんなの日本語初級』は初級前期学習時間を150時間に設定しており、『みんなの日本語初級 教え方の手引き』では、1課あたり平均4時間は必要であるとしている。
7. 『会話の日本語』(1966) Japan Times、『ジェトロビジネス日本語会話 課長』(1997) ジャパンタイムズ、『なめらか日本語会話』(1997) アルク、『日本語でビジネス会話中級編』(1987) 凡人社、『ビジネスマンのための実践日本語』(1998) 講談社、『ビジネスのための日本語』(1998) スリーエーネットワーク参照。

〔参考文献〕

- 石黒圭(2002)「分量表現」小池清治他編『日本語表現・文型辞典』朝倉書店
- 市川保子(2000)『続・日本語誤用例文小辞典』凡人社
- 岡本佐智子・鈴木明美・Stephen Toskar・楊曉安(2003)「『勧誘』と『断り』における言語文化 日本語・英語・中国語・ロシア語の比較から」『北海道文教大学論集』第4号 北海道文教大学
- 川崎晶子(1989)「日常会話のきまりことば」『日本語学』8-2
- グループ・ジャマシイ編(1998)『日本語文型辞典』くろしお出版
- 小池清治(2002)「程度表現1」小池清治他編『日本語表現・文型辞典』朝倉書店
- 周国龍(1994)「要求行為における『ちょっと~』の機能に関する一考察」『名古屋大学人文科学研究』23号 名古屋大学大学院文学研究科
- 中田智子(1991)「談話における副詞の働き」『日本語教育指導参考書19 副詞の意味と用法』国立国語研究所
- 中道真木夫(1991)「副詞の用法分類」『日本語教育指導参考書19 副詞の意味と用法』国立国語研究所
- 芳賀綴(1996)『あいまい語辞典』東京堂出版

- 島郁 (1991) 『副詞論の系譜』 『日本語教育指導参考書 19 副詞の意味と用法』 国立国語研究所
- 飛田良文・浅田秀子 (2001) 『現代副詞用法辞典』 東京堂出版
- 彭飛 (1990) 『外国人を悩ませる日本人の言語慣習に関する研究』 和泉書院
- (1994) 『「ちょっと」はちょっと ... ポン・フェイ博士の日本語の不思議』 講談社
- 真嶋潤子・濱田朱美 (1999) 『日本語初級教科書の分析試案 「ちょっと」の意味・用法から』 『日本語・日本文化研究』 第9号 大阪外国語大学日本語講座
- 渡辺実 (2001) 『さすが!日本語』 筑摩書房

〔参考ウェブサイト〕

- <http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Desert/6037/chotto-report.htm> EII 教育情報研究所 (2001)
『「ちょっと」の程度表現』
- <http://www.prairie.ang.nagoya-u.ac.jp/cgi-bin/collo/webcolloc8> 名古屋大学教育研究改革・改善プロジェクト：国際言語文化研究科大曾美恵子代表、コーパスファイル「青空文庫」
(2000) 『茶漉』 一般公開版日本語用例・コロケーション抽出システム